

令和6年度災害ケースマネジメントに関する
地方公共団体及び関係民間団体向け説明会

令和6年11月7日(木)

災害ケースマネジメントの取組 ～こころのケア・訪問プロジェクト～

むかわ町公認キャラクター
むかろん



むかわ町 保健介護課



むかわ町の概要

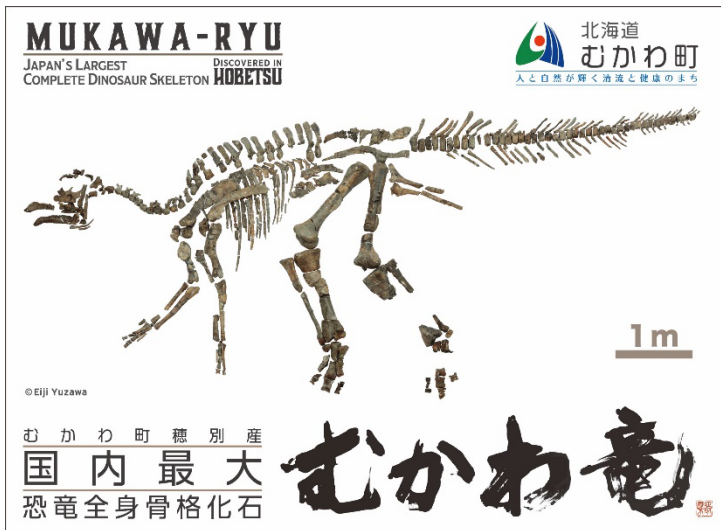
むかわ町はこちらです。



平成18年3月

鷗川町と穂別町が合併

■面積	711.36km ²
■総人口	7,277人(外国人除く)
■高齢者人口	3,038人(41.1%)
■世帯数	4,020世帯 (令和6年8月末)
■基幹産業	農業・林業・漁業



学名 (2019年9月6日発表)
『カムイサウルス・ジャポニクス』

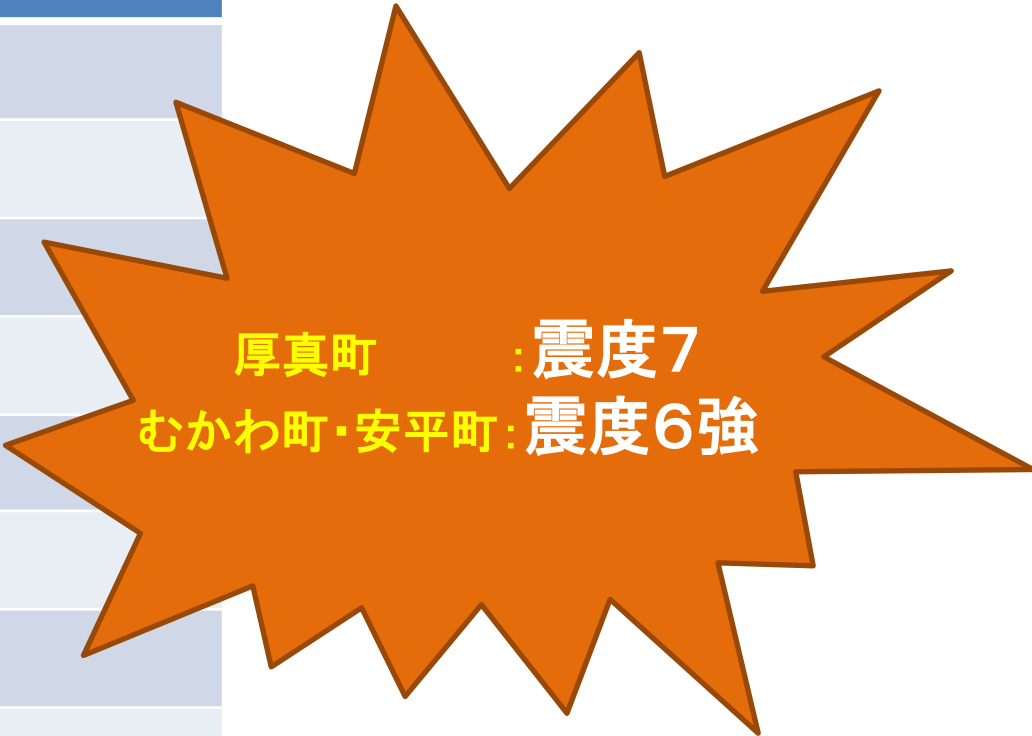


震災後の人口推移(外国人含む)



北海道胆振東部地震発生 2018年9月6日 午前3時07分

区分	
震央	胆振地方中東部
地震の規模	M6. 7
最大震度	震度7
死者	41人
行方不明者	—
負傷者	749人
住宅全壊	432棟
住宅半壊	1, 415棟
一部損壊	8, 998棟

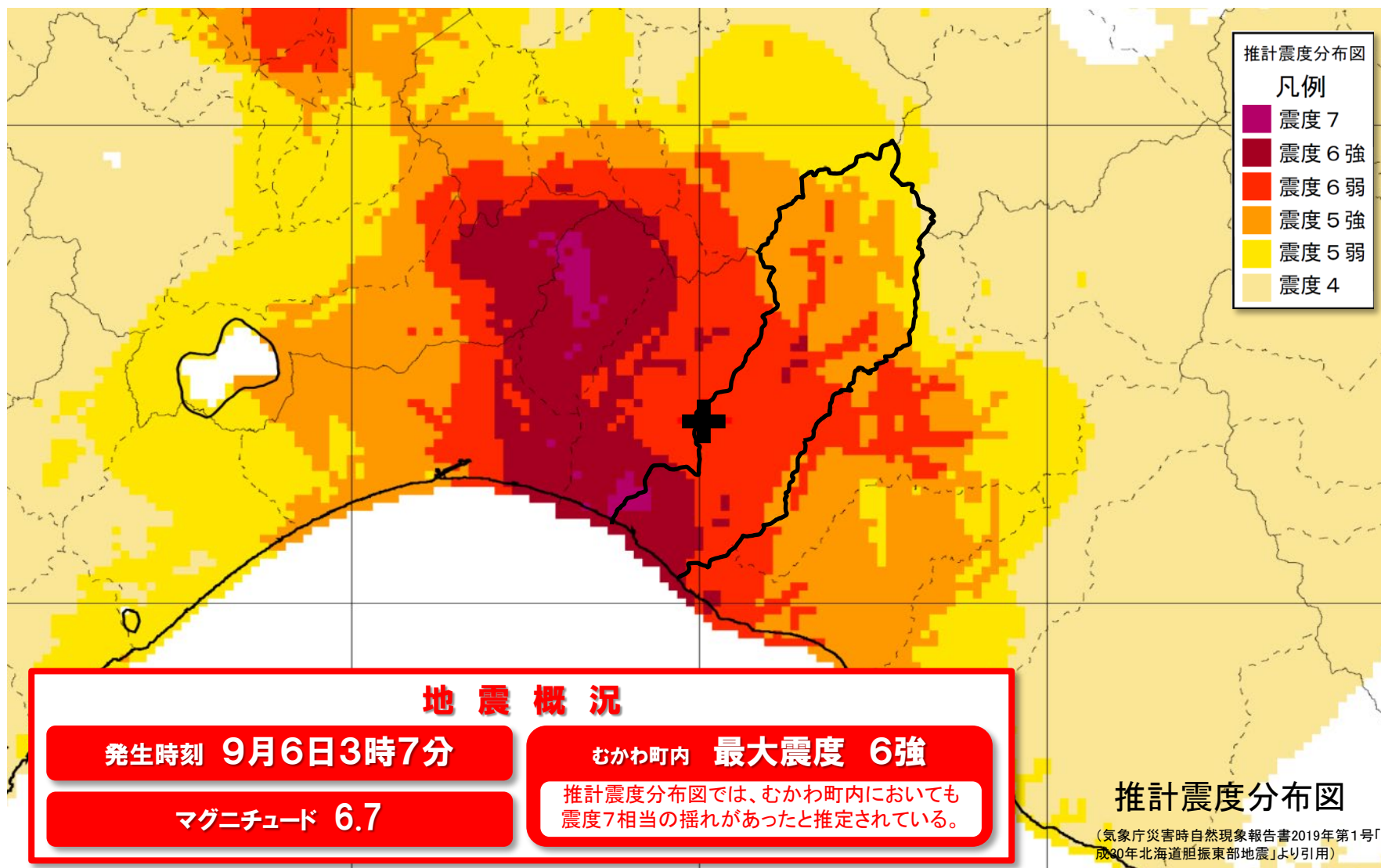


厚真町 : 震度7
むかわ町・安平町: 震度6強

平成30年12月時点の数値



1 地震の概況



こころのケア対応

避難者のこころの状態

- ⇒余震がある度に不安や緊張が強くなる
- ⇒夜眠れない
- ⇒家に帰るのが怖い

避難所のこどもの様子

- ⇒発災直後嘔吐等の急性症状が見られた例あり
- ⇒ライフラインの回復に伴い日中こどもだけで過ごす例の増加

こども達が過ごせる場所はどうなっている？

地震によって身体の不調や不安を抱えることもたくさんいるのでは？

こころのケア対応

- DPAT(心のケアチーム)日赤
避難所巡回、ケア必要者の面談
支援者支援(ほっとルームの開設)など
- 道心のケア班(成人) H30年9月～12月(11日間)
個別面談 実18人、延22人
- 道心のケア班(子ども) H30年9月～12月(15日間)
個別面談:実24人、延29人程度
こども園相談3回
子どもの心のケア講演会(H30年10月21日)11人参加

■ ボランティア

足湯

マッサージ

傾聴ボランティア

など

足湯やマッサージでリ
ラックスしたら、本音を
語るようになってきた

町の人には話しにくい
ことも、町外から来る
ボランティアさんには
話しやすい

最初は緊張して遠慮し
ていたけど、慣れてきたら
参加者も増えてきた

震災後のこころのケアには、ボランティアが大きな力に！

■北海道臨床心理士会

- ・巡回ブック（H30年12月）

ほっとルーム開設

『心の健康アンケート』

→ハイリスク者抽出、集計、分析

ほっとルームでの様子

⇒初めて地震のことを他の人と話した（男性）

心の健康アンケート

⇒ハイリスク者以外にも反応がある人が多数



心のケアは長期に渡る対策が必要！

心のアンケート

平成30年12月巡回ドック受診者

アンケート提出人数(完全回答者)
373人(男性175人、女性198人)

平均年齢 63.8歳

鷗川地区235人
穂別地区138人

むかわ町 こころの健康アンケート

あなたの最近の「こころの健康」についてうかがいます。
地震をきっかけに、様々なストレスを抱え、こころとからだに多くの変化が起こることがあります。これはどなたにも起こることで、時間の経過と共に軽減していくものですが、中には少し長引いてしまう場合があります。
あなたのこころは疲れていませんか？
あなた自身の「こころの健康」に着目して、アンケートのご記入をお願いします。
アンケートの結果により、保健師よりご連絡することがあります。

質 問 票

お名前	(男 ・ 女)	年齢	歳	電話		
●被災後は生活の変化が大きく、いろいろな負担(ストレス)を感じる事が長く続くものです。 最近1ヶ月間に、今からお聞きするようなことがありましたか？ 回答欄の「はい」が「いいえ」どちらかに○を記入してください。						
最近1ヶ月の状態についてお答えください。					回答	
					はい	いいえ
1	食欲はどうですか。普段と比べて、減ったり、増えたりしていますか。					
2	いつも疲れやすく、身体がだるいですか。					
3	睡眠はどうですか。寝つけなかったり、途中で目が覚めることが多いですか。					
4	災害に関する不快な夢を、見るがありますか。					
5	憂うつで気分が沈みがちですか。					
6	イライラしたり、怒りっぽくなっていますか。					
7	ささいな音や揺れに、過敏に反応してしまうことがありますか。					
8	災害を思い出させるような場所や、人、話題などを避けてしまうことがありますか。					
9	思い出したくないのに災害のことを思い出すことはありますか。					
10	以前は楽しんでいたことが楽しめなくなっていますか。					
11	何かのきっかけで、災害を思い出して気持ちが動揺することはありますか。					
12	災害については、もう考えないようにしたり、忘れようと努力していますか。					
13	その他何か困っていることはありませんか？あれば内容を教えてください(自由記載)					

「はい」が5つ以上あるときは、少しこころが疲れているかもしれません。
身近なひとにお話してみませんか？ 保健師に相談をご希望の方は、お気軽にお声かけください。

心のアンケート結果

<ハイリスク者>

鵜川地区 15人(5.9%)

穂別地区 18人(13%)

男性より女性が多い(男性は弱みを見せない傾向)

年代では50～60歳代多い

<SQD12項目のうち該当が多かった項目>

音や揺れへの過敏性(44%)～過覚醒症状

睡眠の不調(29.2%)～過覚醒症状

忘れる努力をしている(24.4%)～回避症状

意図せず想起してしまう(17.2%)～再体験症状

比較的若い方にハイリスク者が多い→潜在的なリスク者がいる？
町全体の状況把握ができていない！→町民の心の状況把握が課題

『復興支援ネットワーク』の立ち上げ

ボランティア情報共有会議

震災直後から、ボランティアと社協・町の情報を3町で共有するため、ボランティアが中心となり定期開催



こころのケアについて、町全体の把握が必要と課題提起



『復興支援ネットワーク』を立ち上げ、
『訪問プロジェクト』を実施することに！

『復興支援ネットワーク』

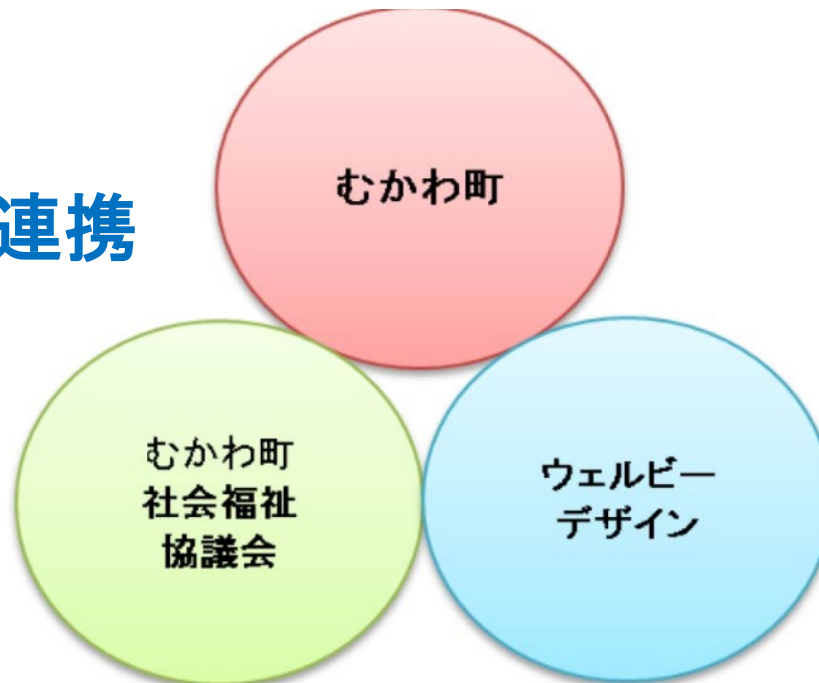
むかわ町復興支援ネットワーク

むかわ町

むかわ町社会福祉協議会

一般社団法人Wellbe Design ウェルビー デザイン

三者連携



～町内全4,000戸の現状把握に向けた～ むかわ町復興支援 在宅支援訪問プロジェクト



R1.9月

住民の“今”を見つめ
必要な支援につなげる

訪問ボランティア募集

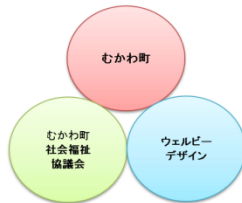
※18歳以上のボランティア保険加入者であれば資格や経験は問いません。

主催：むかわ町復興支援ネットワーク

(むかわ町・むかわ町社会福祉協議会・

一般社団法人Wellbe Design ウェルビー デザイン の三者連携)

【facebook】 <https://www.facebook.com/pg/mukawa.nw/>



問い合わせ先 活動内容・参加方法に関するお問い合わせ

- ➔ むかわ町社会福祉協議会 0145-42-2467 info@mukawa-syakyo.jp
- ➔ 一般社団法人ウェルビーデザイン info@wellbedesign.jp
札幌市厚別区厚別南2丁目7番28号 TEL: 011-801-7450 (代表) <http://www.wellbedesign.jp>
- ➔ むかわ町 健康福祉課 保健介護グループ 0145-42-2415

この活動の一部は、「災害ボランティア・NPO活動サポート募金」の配分を受けて実施されています。

■訪問プロジェクトとは

2019年3月17日より、むかわ町全戸訪問(約4,000戸)を開始しました。
現在は同町穂別地区の約1,200戸を終え、7月より鶴川地区での訪問を実施中です。
昨年9月の地震以降、幅広い年齢層の方が、現在も「身体が揺れている」と感じたり、「朝方目が覚める」などともいらっしゃいます。こうした住民の声を、適切な支援につなげていく活動です。
訪問調査の結果は、支援ニーズの有無だけでなく、ニーズの種類ごとに分類し、それぞれ町内外の支援機関による個別支援が展開されます。

《参加要件》

- 18歳以上の男女・ボランティア保険加入者
- ※当日、保険加入カードをご提示いただきます。
- ※できる限り事前に地元の社協でボランティア保険に加入するようお願いします。(当日、ボランティア保険に加入することも可能です)

住民の方の中には、
ボランティアさんだからこそ
相談できるという方も……。
ぜひご協力をお願いします。

《集合場所》 むかわ町産業会館(予定)

むかわ町 美幸2丁目8番地
※駐車場をご利用の場合、道の駅をご利用下さい。



《活動内容》 当日の人数や天候等により、内容が変わります。

■自宅訪問・聞きとり

ボランティアさん2～3人で一組になり、訪問します。
マップや聞きとり内容等は準備します。
訪問先まで、ボランティアさんの車両で移動をお願いする場合があります。(ペアになったボランティアさんの同乗をお願いすることもあります)

■訪問活動に伴う作業

マップや聞きとりシートの準備・整理等

《訪問活動の流れ》

09:30～10:00 集合・受付
10:00～10:15 班分け
・オリエンテーション
10:15～12:00 訪問活動
12:00～13:00 昼休憩
13:00～15:00 訪問活動
15:30 写真撮影・解散

《実施スケジュール》 ※天候等により内容・スケジュールが変更する場合があります

9月： 1日(日)・ 7日(土)・ 8日(日)
21日(土)・ 23日(月)・ 28日(土)・ 29日(日)

10月： 13日(日)・ 14日(月)・ 19日(土)・ 20日(日)
26日(土)・ 27日(日)

参加
申込み

むかわ町社会福祉協議会 0145-42-2467
info@mukawa-syakyo.jp

むかわ町復興支援ネットワーク Facebook

むかわ町在宅支援訪問プロジェクトの報告

むかわ町復興支援ネットワーク

■在宅支援訪問プロジェクト 訪問ボランティア実績

活動月	日数(日)	ボランティア参加数(人)	地区
H31年3月	1	17	穂別地区
4月	4	39	
R元年5月	5	49	
6月	4	34	
穂別計	14	139	
7月	6	62	鵠川地区
8月	7	138	
9月	8	111	
10月	7	55	
11月	2	15	
鵠川計	30	381	
合計	44	520	

たくさんのボランティアの方々にご協力いただき、在宅支援訪問プロジェクトを終了することができました。訪問件数等の実績は現在整理中です。集計がまとまり次第、お知らせしたいと思います。

課題対応で各世帯を訪問した際に、住民の方々からボランティアさんに感謝の声が多数寄せられています。「ボランティアさんが訪問に来てくれて、ゆっくりと話を聴いてくれた。」
「震災のことを話すことがなかったので、話ができて良かった。」
「どこに相談していいか分からなかったことを、ボランティアさんに相談できて、その後の対応につながった。」

ボランティアの方々のご協力に感謝いたします。本当に、ありがとうございました。

■在宅支援訪問プロジェクト実績(R2年2月集計)

地区		鷗川地区	穂別地区	計				
訪問数	(世帯)	2,130	1,000	3,130				
不在	(世帯)	588	225	813				
在宅	(世帯)	1,542	775	2,317				
課題なし	(世帯)	1,118	539	1,657	課題あり 世帯中の 割合	在宅世帯 中の割合	課題の対応状況	
課題あり	(世帯)	424	236	660				
課題内訳 (重複あり)	精神	(世帯)	179	62	241	36.5%	10.4%	健康・包括で分担し、訪問等で状況を確認し、臨床心理士会・苫小牧保健所・町の三者で開催する「心のケア事後カンファレンス」で対応を協議。対応が必要な方は、町で実施する臨床心理士会による心理相談や、受診を勧奨する。
		(人)	199	64	263			
	身体	(世帯)	24	11	35	5.3%	1.5%	高齢者に多いため、包括で訪問等により状況確認し、必要に応じて介護認定やサービス利用につなげている。すでに関わっているケースが多く、新規対応は少ない。
		(人)	24	12	36			
	住宅・非住家	(世帯)	203	83	286	43.3%	12.3%	ボランティア団体(WellbeDesign)が現地調査をして対応を調整。建築会社に修繕依頼しているが、終了していないケースが多い。技術系ボランティアで対応可能なケースは、ボランティアに依頼している。
	生活	(世帯)	42	7	49	7.4%	2.1%	社協で現地調査をし、ボランティア対応の可否を判断。対応が必要な場合は、ボランティア募集をして対応している。 →室内片付け、車庫整理、庭石移動、薪積み、廃材釘抜き積み直し、土留めなど
	申請	(世帯)	50	35	85	12.9%	3.7%	ボランティア訪問では義援金「未申請」「不明」と回答する方が多いが、申請状況を確認すると、ほとんどの方が申請済であった。未申請者には連絡をして申請につなげている。(11月末で終了)
	その他	(世帯)	49	24	73	11.1%	3.2%	危機対策Gや農政G・建設水道課など関係する部署への情報提供。
対応が不明な事例は、月1回開催している復興支援ネットワーク会議で困難事例の処遇を検討。必要に応じて行政書士(ボランティア)と同伴訪問で対応。								

在宅支援訪問プロジェクトでみえてきた課題

■心身の課題→町保健師

心のケアが必要な方が潜在
揺れや音への過敏、睡眠不調、不安・・・

■住宅課題→ボランティア

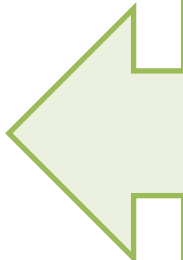
住宅の修繕が終了していない人がいる

■生活課題→社会福祉協議会

片付けが終わっていない人がいる

■その他→役場担当課へ情報提供

地震の後から車通行時の揺れがひどくなった・・・など



震災後1年程
経過しても、
まだ課題解決
していない人
が多数いる

修繕業者も手
が回っていない
状況

※住民意識:「もっとひどい被害の人がいるから自分はがまん」
「町内の人には話しにくい」

R1年度以降のこころのケア活動

■北海道臨床心理士会

R元年度～：災害時自殺対策事業補助金(10/10)

- ・巡回ドック時 ほっとルーム開設(R元年度：14回)
『心のアンケート』
→ハイリスク者抽出、集計、分析
- ・心のカンファレンス(事後支援必要者の抽出)
- ・相談日の開設
- ・仮設住宅入居者向けサロン
- ・啓発活動：リーフレット作成(広報折り込み)
- ・災害心のケア講演会(R3年3月※R2年はコロナ中止)
- ・ゲートキーパー養成講座(R2年度～継続実施)

R1年度以降のこころのケア活動

■町保健師

ハイリスク者訪問

訪問プロジェクト事後(心の課題)訪問

※むかわ町自殺対策計画、復興支援計画
に基づき、心のケア活動を継続実施

■ボランティア

北海道足湯隊: 仮設住宅交流会など

※**コロナ感染症**対応のためサロン等が中止!

「こころのアンケート」は継続実施

R4～SQD12項目から「うつ6項目」のみに縮小

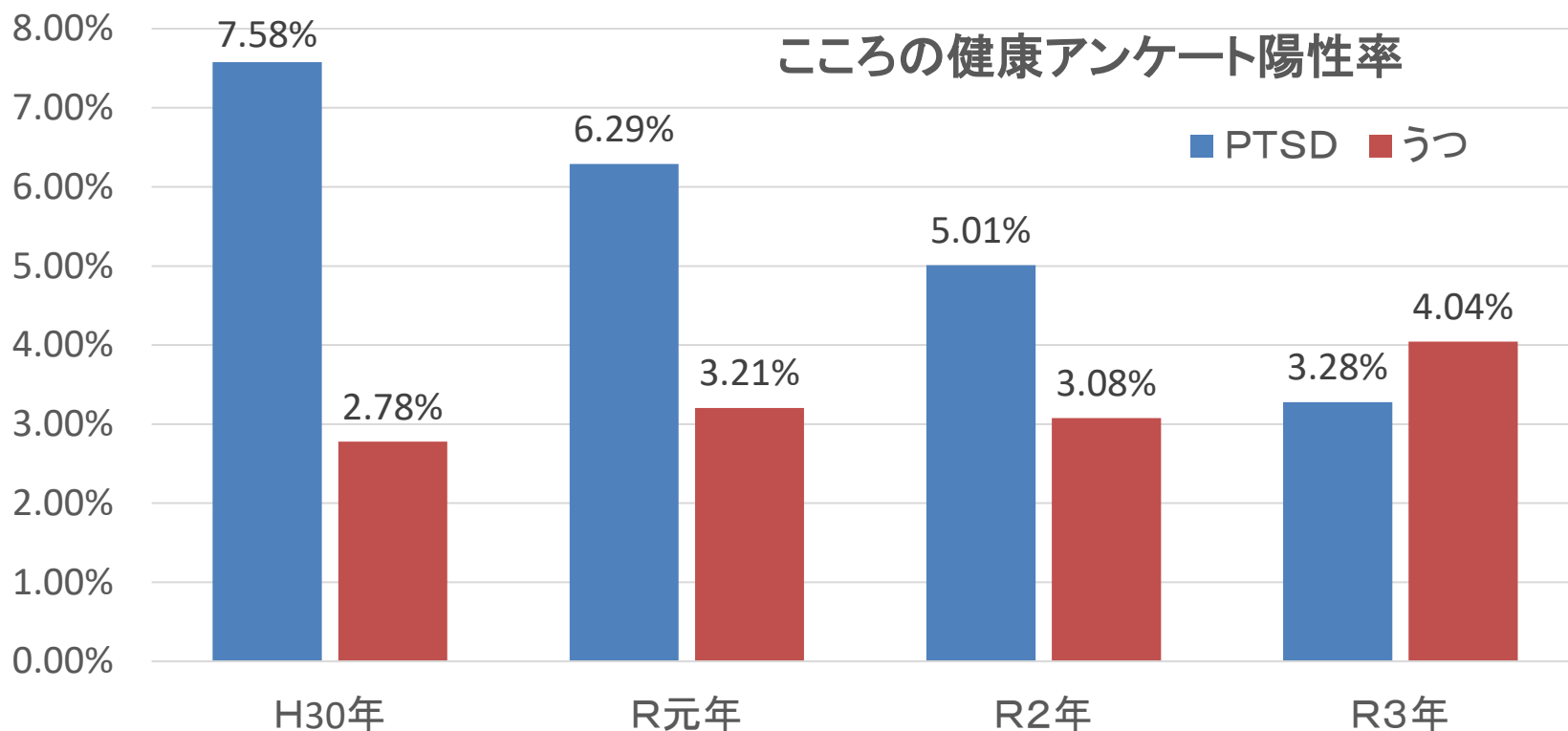
むかわ町 こころの健康アンケート 結果について

こころの健康アンケート陽性者数(人)

	受診者数	P T S D	うつ
H 30 年	396	30	11
R 元 年	811	51	26
R 2 年	878	44	27
R 3 年	915	30	37

PTSDは減少傾向
うつは増加傾向(コロナの影響?)

※H30年度は冬の健診のみ



震災後の心のケアまとめ

- 震災後の経年変化として、PTSDは改善しているが、何らかの反応がある方はおり、長期的な関わりは必要。
- アニバーサリー反応（記念日反応）や、能登震災などでフラッシュバックがあるケースもいる。
- うつは増加傾向。コロナ感染拡大防止のための活動制限が要因と考えられる。
- 震災がきっかけとなり、潜在的なリスクが表面化している傾向もみられる。
- 地震災害は全町民が被災者となるため、町全体を意識した活動展開が必要。
- 支援者のフォロー体制も必要。

支援者支援

■対応する職員の心のケア

日赤心のケア班:リフレッシュルーム開設
道立精神保健福祉センターから支援

個別面談(対応した職員全員135人)

ハイリスク者34人(25%)継続面談

1年後のスクリーニング

健康講座・リーフレットによる周知など

平成25年度～「職場のストレス相談」を月1回開設し、メンタル
ケアセンターの臨床心理士が面談実施していた
→個別面談スムーズに受入

大規模災害時のケースマネジメント

～震災の経験から～

- 平時からの準備が大切

- 地域を把握

生活基盤・産業・環境・土地の特性 など

- 地域住民を把握

健康状態・生活習慣 など

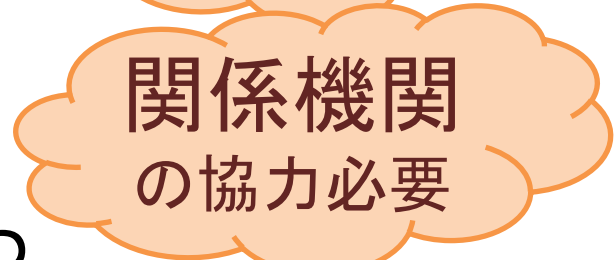
- 地域の支援者との連携体制

- 日常的に関係機関とのつながりをもつ

- ・社会福祉協議会、医療機関、介護事業所
 - ・民生委員、自治会・町内会、ボランティア など



困りごと
の想定



関係機関
の協力必要

3月に、能登震災の支援に入りました。
冬季に同規模の地震が発生したら・・・
平時からの準備の必要性を再確認しました！

心的外傷後成長
(PTG: Post Trauma Growth)



むかわ町公認キャラクター
むかろん

ご静聴ありがとう
ございました！

